校長室だより

R7.4.22　Vol.3

おはよう

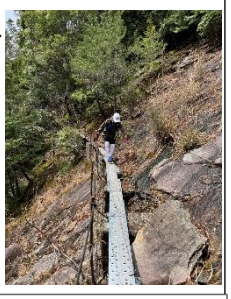
「おはよう！」「おはようございます！」私と子供たちの朝のやり取りです。新一年生はどうかというと…「おはよう！」「おはよ！にこっ」可愛いですね。もちろん、礼儀としては「おはようございます」なのですが、まずは挨拶をしっかりかえすところが始まりです。昨年度、「さようなら」と声をかけると「ばいばい」と、とっても可愛く返してくれていた子供も、今はしっかり「さようなら」と返すことができます。（それはそれでちょっと寂しい…笑）

老化していく大人（私？）と違い、子供たちは１年間でたくさんのこと、様々なことを経験しながら心身共に、どんどん成長していきます。

どの学年の子供たちも実り多い１年になるよう、褒めるべきは褒め、叱るべきは叱る！メリハリをつけた叱咤激励をしていきたいです。

感謝

先日、トレイルラン（山の中のレース）なるものに参加してきました。いやあ超タフコースでした。さて今回もしんどさとの戦いではありましたが、ボランティアスタッフの皆さんのお声がけがとても嬉しく、力になりました。山の中（滑床渓谷～鬼ケ城山系）ですので、チェックポイントに行くのも徒歩で一苦労だと思うのです。（高齢の方もたくさん）当日は雨風も強く寒い日でしたが、ランナーの一人ひとりに「もうちょっとですよ。」「ナイスラン！」と声をかけたり、笑顔で補給食を出してくれたり。



大会や競技会等は選手にスポットが当たりがちですが、縁の下の力持ちがいて、それが成り立つこと忘れたくないですね。

四方山話真穴 ver2.　其の三（八幡浜中学校校歌に思う）

本校入学式があった4月8日、午後から八幡浜中学校の開校式と入学式にも参加してきました。全校生徒400人。その子たちが歌う新しい校歌。体育館に響き渡っていました。その中にこんな歌詞がありました。「ただひたすらに…ただがむしゃらに…ただひたむきに…」自分は今、こんな生き方ができているだろうかとそんな思いが浮かんできました。私たち世代は、戦後復興にむけてがむしゃらに働いていた時代の人たちの子供世代に当たります。そのあくせく働くことへの反動なのか、ひたすらとかがむしゃらとかその響きに何か、かっこ悪さを感じていました。なんかダサい…。俗にいうしらけ世代のしんがりです。スマートであることにかっこ良さを感じていました。その流れは今の時代にまで続いている気がします。スマートシティとかスマート家電とか、最近はICTを駆使した便利な取組によくスマートという言葉が使われていますよね。あ！そういえばスマートフォンもそうですね。便利なもの、暮らしやすい街を創造したり、その恩恵を享受したりすることは決して悪いことではありません。より良い暮らしを求めることは人間の大きな欲求の一つです。

ただ、歌詞にもあるように、ただひたすらに、がむしゃらに、ひたむきに、そういう生き方も忘れてはならないと思うのです。私自身、大人になって、教師になって、社会人になってそんな生き方の大切さを再認識してきました。親や職場の仲間の背中や、目の前の子供たちや、いろいろな人の姿から一生懸命頑張ることの大切さを教えられました。おかげで、一生懸命やった後の充実感も味わうことができました。この校歌の作詞をした方は八幡浜出身の声楽家、宮本益光さんという方で私の知人の息子さんです。きっと懸命に生きてきた人なんだろうなと想像します。でないとこんな歌詞は思い浮かばないのではないかと。真っ新の校歌を聞きながら思いを新たにした新年度最初の日でした。

---------- 切り取り線 ----------

便りの感想や学校への要望等ありましたら、お聞かせください。今後の学校経営・運営に役立てていきたいと思います。